

平成29年5月29日

東北電力株式会社 東通原子力発電所
所長 金澤 定男殿

東通原子力規制事務所
統括原子力保安検査官 大場 國久

安全文化・組織風土劣化防止に係る取り組みの総合評価について（指導）

平成28年4月1日から平成29年3月31日に行われた、東通原子力発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。取り組み要請事項については、確実に実行されるよう求めます。

記

（取組み要請事項）

① 「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」の強化

原子炉建屋天井クレーンに係る工事において、不適合事象が発生し、是正処置を実施しているにもかかわらず、その後2件の不適合が連續して発生している事案や不適合の根本原因分析において、要因分析の再検討コメントを受けて組織要因を抽出する等、事故・故障等を未然に防止する姿勢に不十分なところが見られることから、事故・故障等の未然防止に取り組む組織の強化について努めて頂きたい。

② 「学習する組織」の強化

品質マネジメントシステムの解釈が十分でないことによる不適切な文書の保管や記録作成プロセスがみられること、操作手順書の作成において、過去の不適合事例や類似手順書の事例を参照する等、実務への考慮が十分でないことで発生した不適合事象が見られたことから、学習する組織の強化について努めて頂きたい。

③ 「良好なコミュニケーション」の強化

コミュニケーションにおける、情報の伝達・共有が十分にできていないことによる不適合の発生や不適切な現場設備の状況が見られることから、良好なコミュニケーションの強化について努めて頂きたい。

(奨揚がふさわしい取組み)

保安検査官からのコメントの情報共有やプラント状態管理表の運用については、改善事項の情報共有並びに設備の運転状態把握や施設に影響を与える作業等の情報共有により、事故・故障等の発生防止や不適合事象発生の防止につながる効果が期待される。

(総合所見)

平成28年度の安全文化・組織風土の劣化防止に係る取り組み状況については、活動計画通りに発電所全体として取り組みが実施され、概ね前年度の水準を維持しており、次年度も活動内容を改善して活動を実施するとしていることから、概ね「計画に基づいた取り組みが行われ、改善傾向が見られる」と評価する。

安全文化・組織風土の劣化兆候については、重大な劣化兆候は見られないものの、同一の工事において、3件の不適合事象が連續して発生したことや品質マネジメントシステムの解釈が十分でないことで発生した不適合事象が見られることから「さらに傾向を見るため継続した監視を必要とする。」と評価する。

取り組み要請事項を踏まえて、「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」、「学習する組織」及び「良好なコミュニケーション」の強化に努め、引き続き安全文化の醸成を進めて頂きたい。

以上